



# ミラノ・オリンピック・ピッコル代表決定戦



期日：2025年12月13日（土）・14日（日）

会場：東京辰巳アイスアリーナ（東京都江東区）入場無料

## JSF CHAMPIONSHIPS 2025 SHORT TRACK

### 第48回 全日本ショートトラック選手権大会

スピードスケート

主催：（公財）日本スケート連盟 主管：（一社）東京都スケート連盟

後援：東京都 公益財団法人東京都スポーツ協会

JAPAN SKATING FEDERATION

©aflo sport



詳細は東京都スケート連盟HPをご覧ください

## 【競技日程】

12月13日（土） 10:00 競技開始 1500m、500m  
12月14日（日） 10:00 競技開始 1000m

## 【会場】

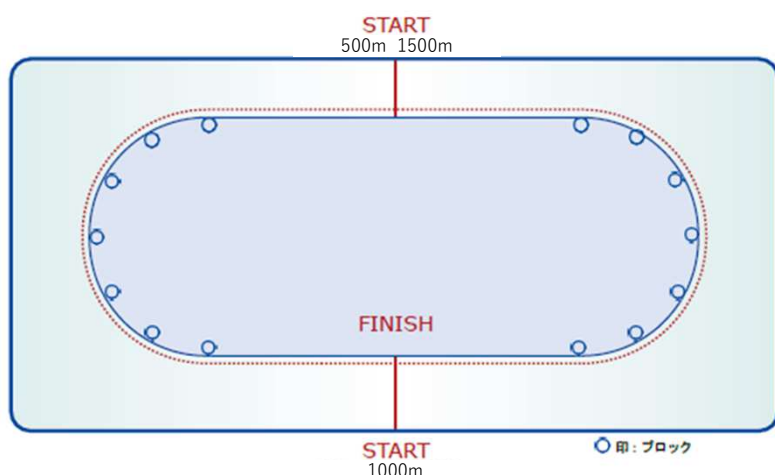
東京辰巳アイスアリーナ 東京メトロ有楽町線辰巳駅から徒歩11分

## ショートトラック競技とは？

ショートトラック競技は他のスポーツと比較しても、極めて過酷な競技と言えます。国内の多くのレースは2日間にわたって開催され、初日に1500mと500m、2日目に1000mが行われ、その日のうちに各距離の優勝者が決まります。たとえば初日には、1500mで準々決勝-準決勝-決勝、500mで予備予選-予選-準々決勝-準決勝-決勝と全8レースが男女別に行われることが多いです。両距離で決勝まで残る選手は（つまり強豪選手は）1日に8レース、7000mを滑ることになります。ISU（国際スケート連盟）のルールではレース間は最低15分以上の休憩時間を設けることとなっています（たった15分???）。

400mトラックで行われるスピードスケート競技は多くがタイムレースということもあり、一部の種目を除き、おおむね1日に1レースであることは対照的な、究極のインターバルトレーニングのような競技です。ショートトラックの選手の中には冬季にスピードスケートとの二刀流で活躍する選手もいますが、多くはスピードスケートの中長距離で活躍しています。ショートトラック競技で培われたカーブの滑走技術と筋力の持久力/復元力の賜物だと思います。

## 【トラック】



ショートトラック競技は30m×60mのインドアリンクに設けられた1周111.12mのオーバルトラックを使用します。トラックにはスタートラインとフィニッシュラインの他にライン標示はなく、各カーブに7つのブロックだけが設置されています。カーブの氷が荒れるため、リンクの上には7つのブロック位置が0.7m間隔で表示されていて、1レースごとにブロックを移動し、氷が荒れていないトラックで次のレースができるようにしています。そのため500mや1500mの時のスタートラインはレースごとに移動しますが、フィニッシュラインはいつも同じラインを使用します。

## 【競技方法】

ショートトラック競技は数名の競技者が同時にスタートして着順を競い合い、各レースの上位が予選、準々決勝、準決勝、決勝と勝ち抜いていくエリミネーション方式の競技方法で行われます。順位はA決勝レースおよびB決勝レースにより1位～10位（1500mでは14位）を決定します。フィニッシュはスリットカメラでスケートのブレードの先端を1/1000秒まで計測して判定します。レース中はいつでも追い越しができ、その熾烈さが醍醐味ではありますが、他の競技者への妨害行為をすると失格になります（原則として追い抜く側に責任があります）。競技がそのまま続行して終了していれば、確実に次のラウンドに進出できる順位にあった競技者が他の競技者の転倒や妨害行為によりその順位が狂わされる事態が生じた場合にはレフェリー権限（アドバンス）により次のラウンドの進出者に追加されることがあります。